

令和元年8月30日

報道各位

一般社団法人日本自動車車体補修協会
代表理事 吉野一

プラスチック部品の補修の外注請負サービス 「メリケン工房」のモニター提供を開始します

一般社団法人日本自動車車体補修協会（代表理事：吉野一、東京都千代田区）の車体補修情報普及委員会_先進修理技法WGは、「JARWAコンセプト^{*1}」のもと、令和元年9月1日より、自動車事故などにより損傷したプラスチック部品の補修の外注請負サービス「メリケン工房」のモニター提供を、会員向けに開始します。

プラスチック部品の補修作業は、「メリケン工房」の修理メソッドである「メリケン工法（損傷部位の溶接方法、補修部位の成型方法などから構成される、従来の接着工法より汎用性、接合強度、耐久性に優れた、当協会推奨の補修工法）」を習得した当協会の「認定技術者」が、協会の推奨プロダクツ（樹脂溶接機、UVパテなど）を用いて行います。

損傷した自動車部品の修理方法には、新たな部品（中古部品を含む）に取り替える「部品交換」と損傷部品を交換せず補修する「部品補修」があります。

近年は、「環境に優しくコストパフォーマンスが良い」「部品の欠品や納期遅延のリスクと無縁である」などの理由から、「部品補修」の市場ニーズが車体補修の発注者（自動車ユーザー、中古車販売店、整備工場、損害保険会社など）を中心に高まりを見せており、中でも高機能化・高価格化が加速しているヘッドライトの「ツメ折れなどの軽微な損傷」など、プラスチック部品に対する「部品補修」のニーズは、直近で顕著に増加しています。

しかし、強度と美観に優れた品質の良いプラスチック部品の補修を車体補修の受注者（車体補修事業者、軽補修事業者など）が行うには、前提条件として「設備投資」「技能習得」「工程変更」などの負担が生じるため、「投資対効果が不透明である」「むしろ作業効率の悪化を招く恐れがある」などの懸念が障壁となり、現在、プラスチック部品の補修を行っている受注者の数は、発注者のニーズに対して圧倒的に不足しています。

当協会は、プラスチック部品の補修の外注請負サービス「メリケン工房」の提供を通じて、この問題に対応します。

具体的には、当協会自らが、『コスト削減のため、損傷したプラスチック部品は「部品交換」ではなく「部品補修」で修理したいが、入庫先の車体補修事業者から断られてしまったので、「部品補修」のみをどこかに依頼したい』という会員のニーズや、『発注者からのコスト削減要求に対応する手段として「部品補修」をどこかに外注したい』という会員のニーズに「メリケン工房」の提供を通じて対応することで、「プラスチック部品の補修を行っている受注者の数が、発注者のニーズに対して圧倒的に不足している」という問題の解決に貢献します。

モニター提供期間中は、対象となる部品の範囲を「ヘッドライトやバンパーなど脱着かつ運搬が可能なプラスチック部品」に、対象となる損傷の範囲を「ツメ折れなどの軽微な損傷」にそれぞれ限定してサービスを提供し、モニター期間終了後は、対象部品の範囲、対象者の範囲、対象となる地域を段階的に拡張することで、会員の多用なニーズに対応するサービスを提供する予定です。

なお、モニター期間終了後に予定している「メリケン工房」の対象となる地域の段階的な拡張は、高度な車体補修の技能を持ちながら昨今の急速な外部環境の変化に対応が困難な一般会員（例えば、車両法の改正による特定整備認証の取得に個別の事情で対応できない一般会員）に、新たな収益事業「メリケン工房_登録事業者制度（メリケン工房が受注したプラスチック部品の補修を登録事業者に二次発注する制度）」へのご参画をお引き受けいただくことにより、進めていく予定です。

以上

※1：JARWAコンセプト：当協会が定義する、安心安全な車体補修品質の確保に資する会員向けサービスの基本概念。

- ① 車体の先進修理技法を提供することで、会員の修理品質の向上、修理費用の低減、工賃収益の増加に貢献する。
- ② 各種の外注サービスを提供することで、会員の修理品質の向上、修理費用の低減、工賃収益の増加に貢献する。
- ③ 新たな収益事業を提供することで、会員の修理品質の向上、修理費用の低減、工賃収益の増加に貢献する。

<参考>

★「部品補修」のメリット

損傷した自動車部品の修理方法には、新たな部品に取り替えて修理する「部品交換」と、損傷部品を交換せず、補修して修理する「部品補修」があります。中でも、高機能化、高価格化が加速しているヘッドライトなどのプラスチック部品は、「部品補修」による修理のメリットが大きい部品です。

①社会的メリット

- ・ CO2排出量を削減します。

②経済的メリット

- ・ 修理費用を軽減します。
- ・ 産業廃棄物処理費用を軽減します。
- ・ 部品の納期待ちによる修理スケジュールの滞留を抑制します。
- ・ 中古部品検索などの業務負担を軽減します。

③技術的メリット

- ・ 「そのクルマ」に付いていた部品そのものを使用することから、補修した部品の寸法は常にジャストフィットです。

以上

本リリースについてのお問い合わせ先：

一般社団法人日本自動車車体補修協会 車体補修情報普及委員会_先進修理技法WG 担当者：鈴木
東京都千代田区神田佐久間町4-6 斎田ビル 5F TEL) 03-5829-4811 FAX) 050-3153-2056